

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：15301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011 ～ 2012

課題番号：23651263

研究課題名（和文） 学校における性同一性障害の子どもへの支援法の確立に向けて

研究課題名（英文） Support system for transsexual adolescents in school

研究代表者

中塚 幹也（NAKATSUKA MIKIYA）

岡山大学・大学医保健学研究科・教授

研究者番号：40273990

研究成果の概要（和文）：性同一性障害では、心の性と身体の性が一致せず、子どもの頃から性別違和感を持ち、不登校、自殺念慮、自殺未遂などを経験する率も高い。

本研究では、各地の当事者の在学する学校、教育委員会、ジェンダークリニックを受診する性同一性障害当事者等への調査により、小学校、中学校、高等学校、大学での対応状況、問題点を明らかにし、対応マニュアルである『学校の中の「性別違和感」を持つ子ども：性同一性障害の生徒に向き合う』を作成、配布した。

研究成果の概要（英文）：Emotional and behavioral difficulties are often associated with children or adolescents with Gender identity disorder (GID). In the present study, we studied on problems of adolescents with GID in school by interviewing and questionnaire surveys of children with gender dysphoria and their parents, school teachers, and people with GID visiting gender clinic in Okayama University Hospital. Our results revealed that adolescents with GID refused to attend school (29.5%), contemplated suicide (58.0%), or attempted suicide (30.0%). Psychiatric disorders complicated with GID were observed in 16.9% of all subjects. We also published and distributed a text and a leaflet on support to children and adolescents with gender dysphoria.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：生殖医学、生命倫理

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：ジェンダー、性同一性障害、性別違和感、いじめ、自殺、教育、学校、大学

## 1. 研究開始当初の背景

性同一性障害 (Gender Identity Disorder:GID) とは、「心の性（性自認）と身体の性が一致しない状態」であり、子どもの頃から性別違和感を持ち、不登校、自殺念慮、自殺未遂などを経験する率も高い。

私達は 1998 年より岡山大学病院ジェンダークリニックで性同一性障害の治療を行っているが、近年、未成年の性同一性障害当事者の受診が増加している。性同一性障害当事

者 661 名に対する私達の調査では、約 8 割が小学生までに性別違和感を自覚し、受診時には、約 7 割が自殺念慮を持ち、約 2 割が自傷・自殺未遂の既往を持っていた（中塚幹也ら：性同一性障害と思春期、産婦治療 99：589-593, 2009）。

当事者が性同一性障害について知りたかった年齢は平均 12 歳であるが、約 9 割の当事者は、子どもの頃には「隠そうとした。」「迷ったが言えなかった」としており、その

うち約6割はそのことを後悔していた(中塚幹也:新連載「性同一性障害の生徒の問題に向き合う」, 中学保健ニュース, 2009年10~11月, 少年写真新聞社, 東京)。「性別違和感のある子ども」を, 学校で早期に支援できれば, 不登校, 自殺, 二次的な精神疾患などの発生を抑制できる可能性がある。

小・中学校教員に行った調査では, 約4名に1名の教員が, 性別違和感を持つ子どもと「学校の中で接したことがある」, 約9名に1名が「自身で担任した」としていたが, 対応できたとの回答は低率であり(菊池由加子, 中塚幹也ら:小・中学校の教員における性同一性障害に関する認識と対応, 日本性科学会雑誌 28:57-63, 2010), 私達は, 高校生用の副読本の中で性同一性障害を取り上げるなどの活動を行っている(中塚幹也:多様な性をめぐって:性別はどうやって決まるのでしょうか?人権教育指導資料VI, 2009, 岡山県教育庁人権・同和教育課, 岡山)。

## 2. 研究の目的

「性別違和感を持つ子ども」への対応は手探りであるが行われてきている。それらの例を調査, 解析し, 教員や保護者のためのパンフレット作成, 教員が気づき対応するためのチェックリストなどを作成し, 学校における「性別違和感のある子ども」への支援法を確立する。

## 3. 研究の方法

(1)性別違和感のある子ども」への学校の対応を調査・解析し事例集作成。

①全国の教育委員会に対して, 「性別違和感のある子ども」の把握の有無や対応に関する調査を行う。また, その中から了承の得られた学校へ出向き, 調査を行う。

②全国のジェンダークリニックに対して, 「性別違和感のある子ども」への学校への支援とその経過を調査する。

③岡山大学ジェンダークリニックを受診した性同一性障害当事者の子どもの頃の学校の対応を調査する。

④自験例も含めて, 事例の経過を解析し, その事例集を作成する。

(2)子どもを観察するためのチェックリスト作成。

①英語版の『親へ聞く「子どもの性自認に関する質問紙」:GIQC (Parent-report Gender Identity Questionnaire for Children)』を日本語に翻訳する。

②診療録の記載や, 性同一性障害の当事者, 親, ジェンダークリニック担当医へのインタ

ビューから, 日本独特の文化やジェンダー観などを考慮し項目を抽出する。

③各項目の類似性, 関連性を考慮して質問項目を選定し質問紙を試作する。

④収集したデータを解析し, 日本版「子どもの性自認に関する質問紙」を完成し, チェックリストとしての妥当性を検証する。

(3)教員用, 保護者用パンフレット作成。

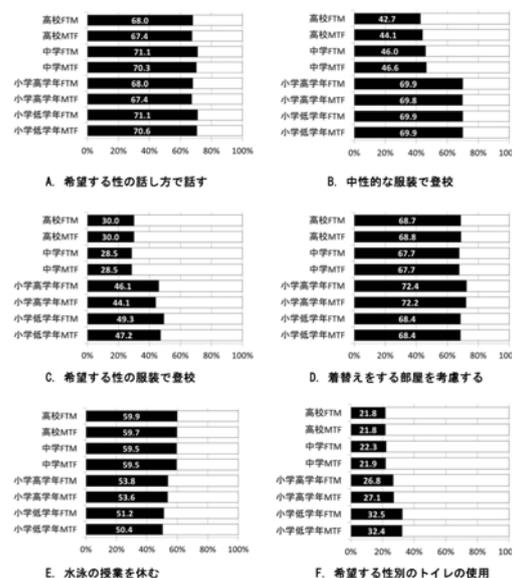
①「性別違和感のある子ども」への学校の対応事例, 子どもを観察するためのチェックリスト, また, 私達の調査データ, 性同一性障害当事者の意見などを検討し, 教員用, 保護者用パンフレットを作成する。

②教員や保護者に読んでもらい, 理解度を確認する。

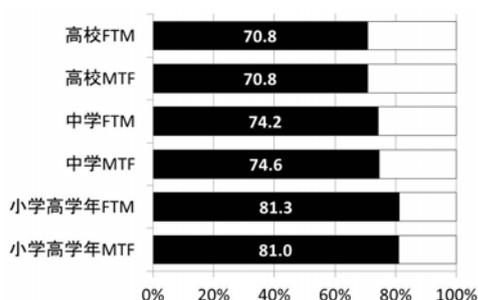
## 4. 研究成果

性別違和感のある子どもへの対応事例の収集を行い, 事例集を作成, また, 専門家との討論のうへ, 学校の中で困難を感じている「性別違和感を持つ子ども」を早期に発見するためのチェックリストを作成した。チェックリストが万能ではないことを理解してもらうために, 性同一性障害ではない子どもを対照としてそれを示す比率を示した。

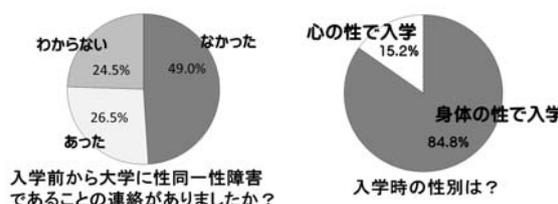
学校の教員への調査からは, 各種の対応が行われていた。小・中・高校の教員に対して行った調査で, 学校で対応の可能性を調査した。対応が可能との回答を示す。希望する性の話し方で話す」「着替えをする部屋を考慮する」「水泳の授業を休む」などは, 小・中・高校ともに対応可能と回答する率は比較的高かったが, 服装に関してしてみると, 中学校以上では対応が困難と考えている教員が多いことがわかる。



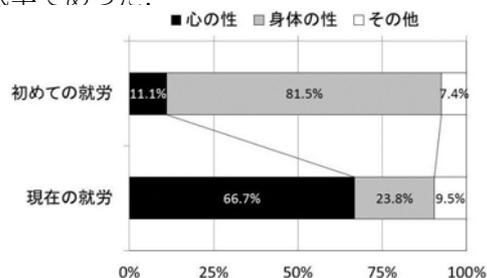
進学先の学校への対応の依頼はデータ上では高率であったが、大学の保健管理センターなどの教職員へ調査では、必ずしも連絡を受けている率は高くなかった。



進学先の学校への対応の依頼 (小中高校への調査)



また、岡山大学ジェンダークリニックを受診した性同一性障害当事者において調査した、学校を卒業して初めて就労したときの性別についての調査では、心の性での就労率は低率であった。



私達は、このようなデータを教員などの研修会などで講演することで啓発するとともに、論文化してパンフレットや教材などを完成し、GID (性同一性障害) 学会、日本精神神経学会などの協力のもと啓発を行った。

これらの結果をもとに、医学雑誌、教育関連の広報紙、新聞各紙に研究内容を公表した。また、教育関係者に必要な情報として、各種のデータをまとめ、典型的な事例、作成した日本独特の子どもを観察するためのチェック項目のリスト、「性別違和感」を持つ子どもに対する学校での対応例などを記載した対応マニュアルである『学校の中の「性別違和感」を持つ子ども：性同一性障害の生徒に向き合う』、および、そのダイジェスト版のリーフレットを作成し、全国の教育関連者への配布を開始した。

本研究の成果である、性同一性障害の子どもへの対応マニュアルやパンフレットなどが有効活用されれば、学校で「GID の子ども自身への支援」、「在校生全体が多様な性への理解を深めるための教育」、「保護者への GID に関する情報提供」が可能になり、いじめを受けにくくする、性別違和感のある子どもが、友達、担任教員、保護者などに相談しやすい環境を整える、不登校、引きこもり、自殺未遂、うつなどを予防する、さらに将来的には、社会の性同一性障害に対する偏見や差別を徐々に変えていくことに役立つと考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

①中塚幹也, 二次性徴抑制療法と若年でのホルモン療法の問題点, 精神神経学雑誌, 査読なし, 115 巻, 2013, pp. 316-322.

②中塚幹也, 性同一性障害のホルモン療法, 2013 岡山県産婦人科医会報, 査読なし, 58 巻, 2013, pp. 70-71.

③酒本あい, 新井富士美, 中塚幹也, 思春期の性同一性障害 (FTM) の子どもへの GnRH アゴニスト使用経験, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読有, 5 巻, 2012, pp. 65-69.

④村上優子, 中塚幹也, 他, 性同一性障害当事者が, 生殖医療技術, 特別養子縁組で子どもを持つことへの肯定感, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読有, 5 巻, 2012, pp. 31-37.

⑤中塚幹也, GID (性同一性障害) 学会からの提言, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 5 巻, 2012, pp. 188.

⑥中塚幹也, 性同一性障害と学校, 全性連・第 42 回全国教育研究大会報告, 現代性教育研究ジャーナル, 査読なし, 19 巻, 2012, pp. 1-6.

⑦中塚幹也, 第 42 回全国教育研究大会・松江大会の報告, 全国教育研究団体連絡協議会 会報, 査読なし, 76 巻, 2012, pp. 2.

⑧委員: 松本洋輔, 外部委員: 中塚幹也, 他, 性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン (第 4 版), 精神神経学雑誌, 査読有, 114 巻, 2012, pp. 1250-1266.

⑨中塚幹也, 性同一性障害のホルモン療法と子どもへの対応, 小児保健研究, 査読なし, 71 巻, 2012, pp. 77.

⑩中塚幹也, 研修コーナー: GID (性同一性障害) と産婦人科医, 1) 性同一性障害と産婦人科医との接点は (overview), 日本産科婦人科学会雑誌, 査読なし, 64 巻, 2012, pp. 216-219.

⑪中塚幹也, 若年期の性同一性障害当事者への対応—GnRHアゴニストの使用や手術・ホルモン療法適応年齢の引き下げをめぐる一, 精神神経学雑誌, 査読なし, 114 巻, 2012, pp. 647-653.

⑫新井富士美, 中塚幹也, 他, FTM 当事者の初診時に認めた子宮頸部細胞診異常—FTM 当事者における子宮頸癌検診と予防ワクチンの考え方—, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 140.

⑬関明徳, 永瀬まどか, 中塚幹也, 地方都市におけるセクシュアルマイノリティ当事者グループの設立と運営, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 75-76.

⑭久井礼子, 中塚幹也, 他, 性同一性障害の社会的課題に関する意識調査: 保険適用と特例法, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 66.

⑮岡崎倫子, 中塚幹也, 他, 性別違和感のある子どもに関する文部科学省通知の認知度と学校での対応への意識, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 63-65.

⑯中塚幹也, 性同一性障害の子どもと学校における対応, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 92-93.

⑰日阪奈生, 中塚幹也, 他, 性同一性障害の社会的課題に関する意識調査: 保険適用と特例法, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読なし, 4 巻, 2011, pp. 67-68, 2011.

⑱久井礼子, 中塚幹也, 他, 性同一性障害当事者の就労の現状と課題, GID (性同一性障害) 学会雑誌, 査読有, 4 巻, 2011, pp. 6-15.

⑲中塚幹也, 性同一性障害の身体的治療とその課題, 精神医学, 査読なし, 53 巻, 2011, pp. 769-774.

⑳日阪奈生, 中塚幹也, 他, 性同一性障害に関する意識調査, 岡山県母性衛生, 査読なし, 27 巻, 2011, pp. 25-26.

㉑中塚幹也, 「性同一性障害の現状と保健管理センターの対応」性同一性障害を取り巻く現状, 第 41 回中国・四国大学保健管理研究会報告書, 査読なし, 2011, pp. 9-13.

[学会発表] (計 50 件)

1) 中塚幹也, 理事長講演「性同一性障害に関する社会的課題と学会としての対応」, 第 15 回 GID (性同一性障害) 学会, 2013 年 3 月 23 日, 大宮ソニックシティ

2) 末石佳代, 中塚幹也, 他, 学校における「性同一性障害」に関する教育・啓発: 養護教諭, 人権教育担当教員の意識, 2013 年 3 月 23 日, 大宮ソニックシティ

3) 内藤友香, 中塚幹也, 他, 性同一性障害

(MTF) 当事者の二次性徴抑制療法への意識, 第 15 回 GID (性同一性障害) 学会, 2013 年 3 月 24 日, 大宮ソニックシティ

4) 佐藤麻夕子, 中塚幹也, 他, 大学における性同一性障害当事者への対応の実態, 2013 年 3 月 24 日, 大宮ソニックシティ

5) 関明徳, 中塚幹也, 大学保健室・学生相談室における性別違和感を持つ学生への対応に関するアンケート調査, 2013 年 3 月 24 日, 大宮ソニックシティ

6) 中塚幹也, 大学生における今日の問題「GID の現状と望まれる大学の対応」, 第 15 回フィジカルヘルスフォーラム, 2013 年 3 月 20 日, 岡山大学

7) 中塚幹也, 性同一性障害の子ども, 鹿児島県性教育研究会, 2013 年 2 月 16 日, 鹿児島市勤労者交流センター

8) 中塚幹也, 性同一性障害の子ども: さらに広がる学校の役割, 九州ブロック性教育研究大会, 2013 年 2 月 15 日, 熊本

9) 中塚幹也, 身体科治療を行う上でのスティグマ・若年者の問題, 第 6 回世界精神医学会アンチスティグマ分科会国際会議企画シンポジウム, 2013 年 2 月 14 日, 東京

10) 中塚幹也, 性同一性障害と学校, 徳島県学校保健・安全研究協議会・性に関する指導研修会, 2013 年 1 月 22 日, 徳島

11) 中塚幹也, 性同一性障害と学校, 岡山市小学校教育研究会の人権教育部会, 2013 年 1 月 16 日, 岡山ふれあいセンター

12) 中塚幹也, 性同一性障害の理解に向けて, 総社市人権教育指導者育成講座, 2012 年 12 月 4 日, 山手公民館 2 階多目的ホール

13) 中塚幹也, 性同一性障害のホルモン療法と子どもへの対応, 第 59 回日本小児保健協会学術集会, 2012 年 11 月 27 日, 岡山

14) 中塚幹也, 性同一性障害のホルモン療法および教育問題, gid.jp フォーラム 24th in 福岡性同一性障害の概要と医療・教育・人権, 2012 年 11 月 23 日, 博多市民センター

15) 中塚幹也, 性同一性障害: 医療から社会へ, 第 36 回日本心身医学会中国四国地方部会, 2012 年 10 月 20 日, 岡山

16) 中塚幹也, 性同一性障害を持つ生徒を高等学校としてどう受け入れるか, 教員人権研修会, 2012 年 10 月 17 日, 岡山県立玉野高校

17) 中塚幹也, 性同一性障害のホルモン療法と子どもへの対応, 第 59 回日本小児保健協会学術集会シンポジウム—性同一性障害診療の実態と子どもに関する課題—, 2012 年 9 月 29 日, 岡山コンベンションセンター

18) 中塚幹也, 多様な性と人権, H24 年度岡山市人権のまちづくり塾第 1 回講演会〜多様な

性と人権～，2012年9月20日，岡山

19) 中塚幹也，自殺予防に対する学会同士の連携に向けて，日本心理臨床学会第31回大会，シンポジウム自殺予防に対する学会同士の連携に向けて，2012年9月14日，愛知

20) 中塚幹也，性同一性障害と社会，岡山県人権推進課・男女共同参画課多様な性のあり方について理解を進めるための研修，2012年8月29日，岡山

21) 中塚幹也，性同一性障害の子どもの理解，平成24年度播磨東地区養護教諭研究協議会夏季研修会，2012年8月28日，加古川

22) 中塚幹也，性同一性障害と社会，人間と性教育研究協議会（性教協）主催第31回全国夏期セミナー，2012年8月6日，山口大学

23) 中塚幹也，Symposium 12：Transgender Health：Hormone treatment and health of transsexual people，The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology，2012年8月5日，くにびきメッセ（島根県）

24) 中塚幹也，基調講演「性同一性障害当事者を取り巻く社会的課題」，日本人権教育研究学会研究大会，2012年8月3日，神戸

25) 中塚幹也，性同一性障害の理解に向けて，第42回全国性教育研究大会2012年8月2日，くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）

26) 中塚幹也，性同一性障害の社会的課題，島根県GIDコーディネーター養成事業紫の風講演会，2012年8月1日，島根県民会館

27) 中塚幹也，性同一性障害を取り巻く現状，平成24年度全国大学保健管理協会近畿地方部会研究集会，2012年7月13日，兵庫

28) 中塚幹也，性同一性障害と子ども，岡山市教育委員会人権教育室H24年度「PTA人権問題研修講座」，2012年7月13日，岡山

29) 中塚幹也，性的少数者の問題～性同一性障害を通じて～，岡山大安寺高校創立50周年記念人権講演会，2012年6月14日，岡山

30) 中塚幹也，性同一性障害医療について，gid.jp22ndフォーラムin沖縄—性同一性障害医療と現状—，2012年6月10日，沖縄

31) 中塚幹也，性同一性障害を取り巻く課題，公明党「性同一性障がいに関するPT」，2012年6月6日，参議院議員会館

32) 中塚幹也，性同一性障害(GID)学会連携シンポジウム「思春期・青年期の性と性同一性障害」「二次性徴抑制と若年でのホルモン療法の問題点と予後」，第108回日本精神神経学会，2012年5月24日，札幌

33) 中塚幹也，性同一性障害の子どもへの二次性徴抑制療法，日本性科学会第41回性治療研修会，2012年5月20日，東京

34) 酒本あい，新井富士美，中塚幹也，他，

「性同一性障害の子どもへのGnRHアゴニスト使用について」，GID学会第14回研究大会，2012年3月17日，岡山大学医学部

35) 中塚幹也，学校の中の性同一性障害の子どもたち，岡山市保健所 性と性感染症に関する研修会，2012年2月29日，岡山ふれあいセンター小ホール

36) 中塚幹也，シンポジウム若年期症例への対応「GnRHアゴニストの使用や手術：ホルモン療法適応年齢の引き下げをめぐる」，第107回日本精神神経学会学術総会，2011年10月27日，東京

37) 中塚幹也，性同一性障害を取りまく社会，岡山市男女共同参画専門委員会，2011年10月24日，岡山市役所 第1会議室

38) 中塚幹也，性同一性障害」，鳥取県教育委員会「これからの人権教育に向けて～新しい視点からのアプローチ～」研修，2011年10月21日，倉吉未来中心 セミナールーム3

39) 菊池由加子，新井富士美，中塚幹也，性同一性障害に対するGnRHアゴニスト使用について，第13回性科学セミナー・第31回日本性科学学会学術集会，2011年10月1日，東京慈恵会医科大学西新橋校

40) 中塚幹也，性同一性障害（G I D）の理解に向けて，玉野市人権教育指導者養成講座，2011年9月28日，産業振興ビル

41) 中塚幹也，性同一性障害（GID）の理解に向けて，岡山県性教育研究大会，2011年8月25日，岡山県立大学

42) 中塚幹也，教育講演 性同一性障害の現状と保健管理センターの対応「性同一性障害の現状」，第41回 中国・四国大学保健管理研究集会，2011年8月25日，岡山大学

43) 中塚幹也，性同一性障害を取り巻く状況，平成23年度宇部市小・中学校人権教育研究集会，2011年8月22日，宇部市

44) 中塚幹也，人権教育「性同一性障害（GID）への正しい理解と対応」，姫路市教委夏休み研修講座，2011年8月12日，姫路市

45) 中塚幹也，性同一性障害と人権，平成23（2011）年度，奈良県教育委員会人権教育推進リーダー研修講座，2011年8月5日，奈良

46) 中塚幹也，性同一性障害に関わる問題：学校に期待されること，倉敷市人権教育課題研究委員会における講話，2011年7月28日，ライフパーク倉敷 視聴覚ホール

47) 中塚幹也，性同一性障害について，平成23年度 生駒市市役所職員人権研修，2011年7月12日，生駒市役所大会議室

48) 岡崎倫子，中塚幹也，他，性別違和感のある子どもに関する文部科学省通知の認知度と学校での対応への意識，GID（性同一性障

害) 学会第 13 回研究大会, 2011 年 6 月 4 日, ゲートシティ大崎ゲートシティホール  
49) 関明穂, 永瀬まどか, 中塚幹也, 地方都市におけるセクシュアルマイノリティ当事者グループの設立と運営, 2011 年 6 月 4 日, ゲートシティ大崎ゲートシティホール  
50) 中塚幹也, シンポジウム「児童・思春期の GID への対応-教育と医療の現場から-, 2011 年 6 月 4 日, ゲートシティ大崎ゲートシティホール

〔図書〕(計 11 件)

- ①中塚幹也, 学校の中の「性別違和感」を持つ子ども, 2013, pp. 1-46.
- ②中塚幹也, 学校の中の「性別違和感」を持つ子ども (ダイジェスト版), 2013, pp. 1-6.
- ③中塚幹也, メディカ出版, 性同一性障害と産婦人科-ホルモン療法と生殖医療, 性同一性障害の医療と法, 南野千恵子, 他編, 2013, pp. 65-78.
- ④中塚幹也, (独) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター, 自殺総合対策大綱の見直しに向けての提言<資料編>, 2012, pp. 194-198,
- ⑤中塚幹也, 東京大学出版会, 性同一性障害, 発達科学入門[3] 青年期~後期高齢期, 高橋恵子, 他編, 2012, pp. 84-85.
- ⑥中塚幹也, 日本医師会雑誌特別号, 小児・思春期診療最新マニュアル, 性同一性障害, 2012, S264-S265.
- ⑦中塚幹也 (共同通信 戸部大), クマノミ出版, 性同一性障害の子どもたち, 新聞記事からできた本, 2011, pp. 54.
- ⑧中塚幹也, 少年新聞社, 性同一性障害の生徒の問題に向き合う, 体と心 保健総合大百科<中・高校編>, 2011, pp. 140-142.
- ⑨中塚幹也, 難波祐三郎, 針間克己 (ライター 熊谷わこ), 朝日新聞出版, 性同一性障害, 週刊朝日MOOK 新「名医」の最新治療 完全読本, 2011, pp. 416-419.
- ⑩中塚幹也, 公益社団法人日本産婦人科医会, 症候・病態別にみたホルモン療法: 性同一性障害, 日本産婦人科医会研修ノート No. 88 ホルモン療法のすべて, 2011, pp. 34-37.
- ⑪中塚幹也, 社団法人日本女医会, Case14: 性別違和感を訴える 11 歳: 性同一性障害, 「思春期の対応マニュアル」~ゆいネット事例からの提案~, 2011, pp. 28-29.

〔その他〕

<ホームページ>

中塚研究室ホームページ: <http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~mikiya/index.html>

GID(性同一性障害)学会ホームページ: <http://www.gid-soc.org/>

岡山大学病院ジェンダークリニック: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/g-clinic/>

<新聞, テレビ報道>

2011 年 4 月 25 日, 児童・生徒の性同一性障害 配慮と支援を, 教育医事新聞.

2011 年 5 月 24 日, 保険適用への理解に差, 性同一性障害, 治療種別で, 共同新聞, 東京新聞, 中日新聞, 他

2011 年 6 月 14 日, 自己受け入れる手助けを, 思春期の性同一性障害, 共同通信, 他

2011 年 11 月 25 日, 思春期の子への対応急げ, 岡山大大学院の中塚教授, 「いのちのコンパス-望む性を生きる」, 共同通信, 他

2011 年 11 月 30 日, Jaan Times, Kyodo

2012 年 3 月 19 日 8 割が「嫡出子とすべき」, 性同一性障害の夫婦の子, 共同通信, 他

2012 年 4 月 13 日 自殺対策「声なき声」聞いて, 「大綱」見直し, 性的マイノリティ-へ関心向ける動き, 毎日新聞

2012 年 6 月 7 日 性同一性障害: 学校の役割重要, 公明新聞

2012 年 10 月 12 日, 性同一性障害の自殺未遂・自傷, 経済状況悪化で再上昇, 毎日新聞

2012 年 12 月 7 日, 理想の性と現実のはざままで~性同一性障害 就労の壁~, NHK

2013 年 2 月 13 日, 家族で向き合う「性同一性障害」, あさイチ, NHK.

2013 年 3 月 26 日, 性的マイノリティの子に理解を 教育関係者が取り組み, 当事者交え議論, 西日本新聞

中塚幹也氏に聞く④, 性への違和感をなくす配慮と教育を, ⑤, 思春期前に正しい知識伝えるシステムに, 週刊教育資料, 日本教育新聞社, 教育公論社, 2012.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中塚 幹也 (NAKATSUKA MIKIYA)

岡山大学・大学医保健学研究科・教授

研究者番号: 40273990

### (2) 研究分担者

関 明穂 (SEKI AKIHO)

川崎医科大学・医学部・講師

研究者番号: 20314685

新井 富士美 (ARAI FUJIMI)

岡山大学・岡山大学病院・医員

研究者番号: 50347986